

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025年3月25日				
大田区立こども発達センター わかばの家 親子通所						
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	2	・法令に準じた設定になっている。 ・15組の親子が全員入ると、刺激が多くなり落ち着かない状況になりがちだが、パーテーションで部屋を区切り、それぞれの部屋にタイプの違う玩具を設定するなどして分散して過ごせるよう、部屋の設定や使い方を工夫している。	・子ども同士の衝突がないように、設定場所も工夫している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1	・指定基準より多くの人員を配置している。グループ担当の常勤職員の他に、非常勤の専門職（心理、言語聴覚、作業療法、理学療法、音楽療法等）を配置し、チームでの支援体制をとっている。	・活動内容によっては（外遊びの時等）はグループ担当の職員だけでは難しく、非常勤専門職員や看護師等による応援体制をとっている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	・わかりやすい提案の仕方(視覚支援含む)、場面の設定、状況のすすめ方等、構造化の工夫をしている。 ・例えば、順番待ちや進行方向など足跡マークを床や壁に貼って提示するようしたり、スケジュールボードにて、数字や写真のカードを使って流れの提示をしている。 ・トイレ、手洗の場所が離れているため、廊下に出るドアにトイレ、手洗の絵を貼りわかりやすくしている。	・掲示物が多くなっているので、整理していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	・施設の老朽化に伴い、随時修繕の必要などところの補修を進めている。日常の清掃等、環境保全に努めている。 ・子どもの活動にあわせて、療育室をパーテーションでしきる等、落ち着いて活動しやすい環境設定を工夫している。	・引き続き、清掃等を行い環境整備に努めている。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	2	・専門職（心理、言語聴覚、作業療法）の個別相談や面談は、落ち着いて相談ができるように部屋を確保している。	・事前に予定されている時は個別室を使うが、必要時に使える場所があるとよい。施設全体で検討し、可能な範囲で調整していく。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	2	・職員会議や日々の打ち合わせの中で、必要なことは随時話し合い、職員間の情報共有に努めている。	・引き続き、課題や目標を職員が共通認識し、計画性をもって進めていく。 ・記録や、片付け、準備等に時間がかかるので、効率化に向けた検討をしている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	・第三者評価や「保護者等からの事業者評価」を実施している。 ・利用開始時、終了時、また行事実施時等にアンケート調査を実施する他、感想用紙や質問用紙を活用し、保護者の意向把握に努めるとともに、改善につなげるようにしている。	・引き続き、職員が共通認識し、業務改善を計画的に進めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	・事業所内の職員会議や、振り返りにおいて意見する場が設けられている。 ・今年度は、記録の書式の変更を行った。	・引き続き、職員からの意見を取り入れ業務改善につなげていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0	・3年に1度、第三者評価を実施し、業務改善につなげている。今年度実施した。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	・法人として育成に主眼をおいたキャリアパスを整備し、個々の職員の育成計画を作成して計画的に研修をすすめるよう努めている。 ・OJTの強化とともに、法人内外の研修に参加する機会を積極的に設ける体制を取っている。 ・今年度は医師による勉強会や講演会を聴講する機会を設けた。	・引き続き、必要な研修への参加の機会を確保していくよう努めていく。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6	0	・契約時に年間予定をお渡ししている。毎月「活動予定」を配布している。 ・2月には年度末に向けて、支援の中で大切にしているポイントを文章化して保護者と共有できるように努めた。	・引き続き、職員が共通認識し、計画性をもって進めていく。

適切な支援の提供	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6	0	・同施設内に併設されている相談部門や入所前の利用事業担当者等と連携しながらニーズや課題の客観的な把握に努めている。 ・各専門職の視点を踏まえ、アセスメントを適切に行うよう努めている。 ・発達検査や初回アセスメントの結果だけでなく、保護者と面談を実施したり、年度当初に全体評価の日を設けて集団内での子どもの様子をアセスメントする等の工夫をしている。	・引き続き、専門職の意見を取り入れながら多角的な視点で、ニーズや課題を把握し支援計画を作成していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	・専門職（心理、言語聴覚、作業療法、理学療法）や摂食の意見を聞きながら個援計画の策定会議を行い目標や具体的な支援について検討している。	・引き続き、支援に関わる職員の意見を取り入れながら検討していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	・計画に沿って実施し、定期的に振り返りを行っている。	・引き続き、課題や目標を職員が共通認識し、計画性をもって進めていく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	・基本的に、新版K式発達検査を使用している。そのほか、必要に応じて言語聴覚、作業療法の評価を実施している。 ・子どもの状態によっては、保護者からの聞き取りによる評価を行っている。	・引き続き、職員が共通認識し、子どもの理解を深めていけるように努めていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	0	・児童発達支援計画の中に、保護者と子どもの意向を明記するとともに、個々の発達課題や必要なことについて、具体的に支援内容を記述している。 ・ガイドラインについて、職員の理解と周知を徹底し意識向上を図っている。	・引き続き、ガイドラインの視点をふまえた目標を設定し、職員が共通認識し、計画性をもって支援を行っていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	0	・グループの打ち合わせや会議等で随時検討、立案している。また各種専門職からもアドバイスを受け、積極的に取り入れている。	・引き続き、多角的な意見を取り入れながら活動プログラムを計画していく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	0	・子どもの状況に合わせた活動プログラムを随時検討し、必要に応じて変化させていくようにしている。 ・子どもが活動や遊びを選択できるような工夫をしている。	・引き続き、子どもの興味関心や発達に合わせた活動プログラムを実施していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	0	・基本的に、集団活動と合わせて各専門職による取り出しの個別指導を設定しており、それらを踏まえて個別支援計画を作成している。	・引き続き、個々の子どもにあわせた支援計画を作成し、支援を行っていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	0	・当日、支援開始前に打ち合わせ時間を設け、その日の動きや役割分担、注意事項等について確認し、共有できるように努めている。	・引き続き、職員が連携して支援を行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	0	・活動後、グループの職員間、専門職との振り返りの時間を設け、子どもへの理解や支援内容について、情報共有していくよう努めている。	・引き続き、職員がその日の支援を共有し、計画性をもって次の支援に繋げていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	0	・毎回の活動の個人記録を作成している。 ・保護者に連絡帳を記載していただき、家庭の様子や健康面の把握を行っている。当所での様子を記入し、記録として保管している。	・限られた時間の中で、必要な記録を効率的にとれるよう工夫していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6	0	・中間見直しを定期で行うとともに、その他必要に応じて子どもの状況や保護者の意向を確認し、見直しができるようにしている。	・引き続き、定期的にモニタリングを行い、適切に見直しを行っていく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	0	・相談支援事業所や子ども家庭センターと連携し、サービス担当者会議に必要に応じて参加している。	・主に児童発達支援管理責任者が対応しているが、引き続き全職員で情報共有し、共通理解を図っていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	0	・毎年、関係機関との連絡会議を行い連携体制を構築している。必要に応じて個別に連絡を取り合い、連携した支援を行っている。	・引き続き、関係機関と連携して支援を行っていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	・保育園を併用している方は、保護者の依頼に基づき、電話や来所による連携を行った。 ・移行先に指導状況報告書を提出したり、直接連絡する等、情報提供、情報共有を図っている。	・引き続き、支援内容等の共有と相互理解を図り、地域での生活を支援していく。

関係機関や保護者との連携	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	0	・就園の際は意見書や指導状況報告書の作成し、支援内容の共有を行っている。	※「親子通所」は、利用対象を2～4歳とし半年度利用を基本としているため、小学校・小学部への移行支援の該当は無い。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	3	1	・施設内の各種専門職や嘱託医と連携し、随時助言や研修を受けている。	・引き続き、スーパーバイズや助言を受け、支援の向上に努めている。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保護者への説明等	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	・こどもまつりの開催や、近隣公園遊びへの活動で、地域の子どもと場を共有する機会を設定した。	※「親子通所」では親子活動を通しての療育を集中的に行っている。その枠組みの中で、保育所等との交流の機会を設けるのは難しい状況。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	・親子での活動であり、毎回の活動で状況を共有し、その都度子どもの発達や課題について伝え合い共通理解を形成していけるように心がけている。 ・家庭での様子や保護者の心情等を伝えやすいように「連絡票」を導入している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	・親子での活動プログラムであるため、毎回の活動をともにする中で支援を行っている。 ・子育てや発達についての理解を深めていく機会として、年度後期には定期的(月1回程度)に保護者の勉強会を設定している。	・引き続き、家族の理解を進めていけるように研修の機会や情報提供等を行っていく。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	・事前の説明会や、契約時の重要事項により丁寧に説明するよう心がけている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6	0	・支援利用計画や面談をもとに、保護者や子どもの意見やニーズを尊重して支援計画を作成するように努めている。	・引き続き、子どもや家族の意向を確認し、支援計画を作成するように努めていく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	0	・児童発達支援計画説明のため面談を実施し、説明したうえで質問等を受け、同意を得るようにしている。	・引き続き、分かりやすく説明をし同意を得た中で支援を進めていく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	0	・順次、個別面談の時間を設けている。 ・日常的には、活動後に話をしたり、連絡帳や電話等で対応している。	・引き続き、活動や面談の中で相談や助言をおこない、必要な支援ができるように努めていく。
保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	・日曜日を利用して、日頃療育に参加できない家族向けに、「日曜参観」を実施し、家族の子どもへの理解を深めるとともに家族が交流できる機会としている。 ・通常のプログラムとは別に療育後の時間、ホール開放日を設け、保護者が交流できるような機会を作っている。	・懇談会を設定し、保護者同士が交流できる機会を設定できるように検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	・通常の連絡帳以外に質問用紙を渡して、専門職を含めて質問や相談に対応できるようにしている。 ・苦情の受付、解決体制を整備し、迅速な対応を心がけている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	・毎月「活動予定」を配布し、活動や行事予定等の情報を伝えている。 ・毎月「ほけんだより」を発行し、健康管理や病気やけがの予防、感染症等についての情報発信をしている。	・HPやSNS等での連絡体制については、利用者のニーズを見ながら区と検討をしていく。

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・区の個人情報保護条例、法人の個人情報保護規程等に基づき、「情報セキュリティマニュアル」を整備し、職員に周知徹底を図っている。 ・個人情報関係の書類は、必要な時以外は施錠管理し、個人情報の受け渡しについては、その都度受け渡し簿に記入している。 ・保護者には、契約時に、守秘義務と個人情報の取扱いについて説明し、個人情報を用いる場合には、その都度利用目的を明示し、文書での同意確認を行っている。 	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者の個々の状況に応じて、配慮している。子どもには出来るだけわかりやすく、見通しの持ちやすいような意思疎通や情報伝達の方法（写真や絵カード、サイン言語、手話等）を、工夫している。 ・外国人の保護者には必要に応じて通訳を手配している。 	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・「こども祭り」を開催した。近隣・地域に向けて案内をし、地域住民の方が多数ボランティアとして参加し協力してくださる等、地域住民の方との貴重な交流の機会となった。 ・近隣公園での遊びを実施し、地域の子どもと触れ合う機会を設けた。 	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・各マニュアルの策定を行った。感染症対応については、基本のマニュアルの他、「保健だより」を月1回定期的に、必要に応じて号外として発行し、職員、保護者への周知を徹底している。 ・「防犯」の観点から来館者にはすべて来館証をつけてもらうようにしている。 	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の防災訓練を実施して実際の状況を想定しながら、実効性のある訓練を実施している。 	・地域との連携、福祉避難所の開設について、区と確認して明確にしている。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・調査票への記入を含め、事前に確認している。 ・てんかん発作等については、事前に必ず医師の指示書の提出をお願いし、看護師、担当者の聞き取りにより対応書を作成している。 	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・調査票への記入を含め、事前に確認している。 ・食べ物アレルギーの子どもについては、補食時の席を他児と距離を取るよう配置して対応している。 	※事業所からの食物の提供は行っていない。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止委員会で安全計画を作成している。 	・緊急時対応や防犯についてはマニュアルの整備等が不十分な状態である。再整備し、職員や保護者への周知を進めていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月、利用者にも参加していただきながら避難訓練を実施している。 	・昨今の災害状況を踏まえ、必要な訓練内容について見直し、今後さらに、実効性のあるものにしていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットの事例は多数あり、まとめて共有している。 ・「事故防止委員会」を設置し、ヒヤリハットの分析や周知の仕方について、検討している。 	・事故の背景や傾向などを分析し、事故防止や環境改善につながるよう取り組んでいく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	<ul style="list-style-type: none"> ・「虐待防止委員会」が職員への研修を企画実施している。 ・全職員を対象に虐待防止や人権擁護のチェックリストを実施した。 ・虐待防止研修への参加の機会を設け、参加した職員から、職員全体に周知した。 	・引き続き、虐待防止、人権擁護意識を高めるとともに、支援の質の向上につなげていく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の際、重要事項の説明の中で、基本事項として丁寧に説明している。 	・引き続き、やむを得ず身体拘束が必要になると思われるような場合には、保護者への十分な説明とともに、児童発達支援計画に記載していく。